

2026年 肺炎ワクチンについて

令和7年、インフルエンザの死者数は6333人で令和6年の2855人から倍増してしまいました。インフルエンザワクチンは香港型、B型では重症化予防の効果は薄く、高齢者の重症化はほとんどが肺炎の併発によって起こっていました。肺炎ワクチン未接種、または以前の接種から5年以上たっている高齢者・基礎疾患のある方は接種をご検討ください。他のワクチン接種後も接種間隔をあける必要はありません。平日の診療時間中に予約・接種を行っています。

令和8年から接種されるワクチンがこれまでのニューモバックス（23価）からプレベナー（20価）にかわり重症化の予防率は45%から75%に大幅に増加しています。有効期間は長くなり5年毎接種から原則1回接種のみとなりました。ただ、初回接種の方（今まで肺炎ワクチンを打ったことのない方）についてはデータ収集中となっていますが、少なくとも10年は有効であると考えています（その後は追加接種が必要となる可能性があります）。発熱、注射部位の疼痛などの副作用は変わりなく重篤な副作用はありません。

公費負担は接種時65歳の方のみ（6000円、市民税非課税の方は無料）となります。

今まで5年毎にニューモバックスを受けてこられた方もプレベナー、またはキャップバックス(21価)の接種をおすすめします（ニューモバックス接種後1年で接種可能）。令和8年には公費負担の対象とされていませんが、さらに高齢者向けに特化したワクチン（キャップバックス）も開発されています。高齢者肺炎でのカバー率はプレベナーの42%に対しキャップバックス72%と大きく向上しています。自費のみ、16000円となりますがお勧めできます。

接種希望の方は診察で説明を受けたのち、予約をお願いします（完全予約制）。

(4月1日から)	自費	公費負担あり (65歳の方のみ)
ニューモバックス (従来のもの、重症化予防のみ)	8000円	なし
プレベナー (発症予防にも有効)	12000円	6000円 市民税非課税の方は0円
キャップバックス (高齢者向けに特化したワクチン)	16000円	なし